

明治四年辛未十二月



萬國新聞

第十三號

東京書林

北島茂兵衛  
山中市兵衛



18 特  
115  
13



萬國新聞第十三號

シヤパンヘラルド新聞第二千五百八號

明治四年辛未十一月三日横濱刊行

新發明の事

字漏生の「エキスチエンジガセツト」と云新聞紙のナール  
ス綱は新聞紙を抄出せり曰く「サエネキヤ」國人トセリ欲と  
云者船の下に泳る器械發明なる之を「テルバマリナ」と  
名く即ち海鯨鼠の義なり全体鍍或ハ黄銅を以て之を製し  
形も圓壩として長は四メートル（大約我一丈二尺）経り一メ



ト九一分大約我三尺三寸を器内分れて四區と爲し其上區よハ空氣を密壓し以テ泳人呼吸乃用に供汝第二區ハ即ち泳人の居所に於て第三區よハ此器を水中可昇降汝ハ機關設備ふ第四區よハ鉛を以テ之に充汝是れ此器を水中に直立せしむる爲めなる器の外面にハ錐錘等幾多の工具を附し以て泳人工業の用可供ふ

第八月廿六日發明人トセリ氏親から此器内に入りテ「ナールス」灣の海底に下りテ海軍の將校其外高貴の官人之を見分レトセリ氏ハ深坑七十メートルト九「大約我二十一丈」の海底に沈みテ一時間其處可止まじ此間に同氏モントウエ

シユウユースの天文臺は長官プロフエツソル維バ九ミ  
ーリ欽と贈るる書狀を認めたり其日附にハ一千八百七十一年第八月廿六日ナールス灣の海底よりと認めらる  
同氏水上可出テよテ人ハ語テ曰ク此器ふ入りテ海中に下り水を視れハ恰も透明な硝子の内に在る如し更ニ周圍の水を覺へ汝又其流動するを知らハ器内の光明ハ以テ書ヲ讀ミ文ヲ綴る可足る可し魚類眼目を過る者其數を知らハ水中ふ在りと雖も心氣常ニ變らハ呼吸甚快し唯ハ實に寂寞なり晴雨針ハ八十一センチメートルト九の壓力を顯し濕氣針ハ八十五度と於て百度<sup>センシタラ</sup>の寒暑針ハ器内ニ於て二

十六度器外み存るハ僅ニ十五度あり器内ニ貯ふる所乃空  
氣を檢査しれみ尙數時間を支ふるニ足るヘシト云  
ナールスの新新聞紙み由きハテルバマリナ多兩人に之を  
其内可入る事を得可し器内に十分乃空氣被壓塞液を以殆  
せと五十字間水中に止まる事を得ヘシト云

シヤパンガゼット新聞

明治四年辛未十一月二日横濱刊行

魯西國の評

ロンドングローブ新聞紙に出てたれ左の應對ハ魯西亞國  
の公族と筆記者との論なり筆記者問曰ク英國ハ後世に至

て當時の如き勢ハを保つるをよし然らざるハ誰ハ其後を續  
くヘキヤ魯國も之を答曰ク多分ハ然らざる問曰ク併し魯  
國ハ嘗て海軍に威勢を持たれヘシ答曰ク否我ハ兵力あり  
貴國海外の所領ハ又除らるゝなるをよし問曰然らハ誰ハ之  
を取らるゝや答曰我思ふに瑞典那威丁抹ふらるゝ又和蘭  
ウエネチアノ如く凡そ海軍に大威力ある者ハ亦除らるゝを  
し尤是れハ斯把尼のアルマダに亡し後なるヘシ勿論此  
改革ハ必定ならるゝ我ハ今道々運ハ行く處乃印度を取ら  
ヘシ但し先最初ニ字漏生國と兵を構ふをよし問曰然らハ我  
國及ハ獨逸國ハ如何なるヘキヤ答曰夫れハ後世字漏生と

合併しプロテスタント宗の首部となりて一王國となれし  
しバワリアを凡て羅馬宗の諸部を領しはるるを以て次は  
ンガリール、ボヘミア、ダスピアン領地を合してスクラホニア  
の一大王國を成てし澳地利の第三級の王國となれし  
又佛朗西をアルセース及びロルシーンの地を恢復し  
去れども英國を讓りたる伊太利の地を失ふを以て然る後  
は羅馬法王たるはし但し羅馬を以て伊太利の首府となれし  
し問曰く而して都兒格を存し如何答曰く否都兒格を存  
せし然れども後を再び希臘帝國の首領となれし斯把尼  
及び葡萄牙を結合して一の王國となれし問て曰く而て

マルタ及びジブラルタルを如何答曰く合衆國に墨是哥を  
取るの時に至りて英國より加拿太の地を合衆國に與ふる時  
此地を以て共り渡りしを以て問曰く然るは其時佛國より我  
國を助るは或るや答曰く否佛國を助るは前戦争中英國を如何  
に處置を爲せしや之を勘考し彼を戦争の時英國の  
處置は他日滅亡の時の基本となるべし彼時英國にて仲入  
せしや如何獨逸に於ては佛國にて當時の難儀を受る程の  
勝利を得しとを以て左のみ譽とせし又佛國にて難儀の時  
は英國にて如何なる處置を爲せしや是迄は考へし  
れし問曰く是下の勘考を以て和蘭及び白耳義を如何に

おるきや吾未ち承知せ候答曰和蘭及び白耳義ハ再ハ一の  
王國を成候へし其内白耳義乃方ハ心欲勢盛か候へし九キ  
セムボルグを再ハ獨逸に歸しスしスウイグホルステイン  
をスカンデナウエアノ王國に歸しへし問之曰く佛國に之  
今の騒動平定乃後ハ帝位之即くおるき者何人なるや足下其  
意如何答曰く當今ハチルシアノスト氏を併し其後に至  
よハチボシチン氏之回復し從前よるも尙堅固なる候へし問  
曰今足下羅馬法王なるらんと云へり然らハ法王なるれハ  
如何とて羅馬宗ハ榮也と云や答曰其實ハ羅馬宗の滅候へき  
を謂なり此羅馬宗乃滅亡の證ハ羅馬國は滅亡之あ候へし

方今乃人民ハ活眼を開きて羅馬の過失を知るを得る候問  
て曰後世萬國に於て必ハ普く希臘宗を奉せんとハ足下推  
察せ候はらと云へし答曰否後世必ハ二個の大寺院を建候  
し一ハ東寺即ち希臘寺一ハ西寺即ち新教寺なり問曰西寺  
乃本寺ハ何所ニ建つへき答曰英吉利か京問曰足下先き  
我國ハ久く今の威力を保た候と云候や否や答曰英國とハ  
英吉利乃一島也云か何國ハ亡ふるとも島ハ盡くまし而て  
西寺乃根本と云候へし問曰足下今一島國と云ハ何ぞや二  
島國とあり候や答曰阿爾蘭ハ其内に分れて一個乃王國或  
ハ共和政治國とならざる故か何國問曰然ハ足下乃説よてハ阿

爾蘭一國とされ哉予ら思ふ所にてハ波蘭一國とならへし  
答曰今我輩一橙採取之を數個ふ切らハ各國分割の模様  
を見らへし我國ハ澳地利及以字漏生と共に波蘭地を分  
割しと有流へし問曰然らハ足下ハ魯國を萬世不滅の國と  
思ふや答曰否然れとも魯國ハ歐羅巴亞細亞亞非利加亞米  
利加及以澳太刺利の各洲分れて五大帝國と爲らば迄ハ續  
くへし問曰澳太刺利を一大帝國となれや答曰埃太刺利ハ  
必次五大帝國に最も富強され者とならへし而て其富無量  
ふ至り其財盡取らるる候へし問曰如何を以障得ありて  
未だ足下の論の如き大變革に至らば流や答曰人民乃不平

均に由れざる我國の如く人民不足の者あり又貴國の如く  
人民過多の國ある故あり

リウト九電報

倫敦第十一月六日午後第三字二十五分

本日の公會ハ第十二月廿九日と延ばれり

日耳曼に於てハ軍用の爲めとて爲換手形並に金貨幣を軍  
務局に運ひ入れらる

倫敦第十一月廿一日午前 英國の太子ハ熱病に犯れり  
と併し格別の事にあらる

同午後 英國の太子大熱病を煩へば併し氣力可於て變る

事あり

上海電報

上海第十一月廿八日 魯西亞國と異論起りたる事  
アモイ船港内の巖み突上るる蒸氣船アヅフ船ハ引受人よ  
り七千二百五十元にて糶賣然りたる由風聞あり  
横濱在留シーベル氏及ヒブルンワルト氏商會代目代とし  
てグラスゴウ船に在依ミル兄弟の者へ注文せし瓦斯  
燈乃細工ハ彌々出來せり當月廿八日横濱及ヒ兵庫へ向々  
出帆の爲め蒸氣船ゼドキア船の船積の最中あり

シヤパンヘラルド新聞第二千五百五號

明治四年辛未十一月二日横濱刊行

錫蘭電信局新聞

倫敦第十一月六日午後三字二十五分

倫敦の公會ハ十二月迄延引せり

米國に鯨獵船三十三艘水中に閉ららむ乗組の者船被捨て  
遁れあり

ロンドン第十一月七日 ヨオントピウスト氏ハ病氣に付  
辭職を云顯しる事

諸人此辭職願ハ承諾ありき事を希望せり

アンドリッサー氏ハヨオントピウスト氏の跡役とあり



日耳曼よてハ軍用の爲め爲替手形及び金貨幣並武庫ふ収  
める家